

日本テレコム

法人ニーズに応えIPアクセスを強化

日本テレコムが収益拡大を図るため、法人向けサービスに注力している。IP-VPNや広域イーサネットサービスをインターネットと組み合わせイントラネットからエクストラネットまでトータルにサポートを行うソリューションビジネスに取り組んでいる。

データ通信暗号化技術であるIPsecを活用し安全に通信を行うインターネットVPNや、MPLSを活用した閉域IP-VPNなどインターネットとシームレスに連携できるサービスが、企業ネットワーク市場で脚光を浴びている。

日本テレコムでは業界でいち早くIPによるバックボーンネットワーク「PRISM」を構築。2000年4月から企業向けに閉域型IP-VPNサービス「SOLTERIA(ソルテリア)」を開始

し、さらに多様なニーズに対応するため、社内LANと親和性の高い広域イーサネットサービス「Wide-Ether」、法人向けのインターネットサービス「ODNスーパー」などのメニューを用意している。

では、同社ではどのようなネットワーク提案を進めているのだろうか。インターネット連携を軸に、ソルテリア、ワイドイーサ、ODNの3つのサービスを取り上げ、それぞれについて同社の提案手法を見ていこう。

用途別にメニューを追加

のソルテリアは、IP通信に統合された複数拠点間接続などに用いるIP-VPNサービス。「高速デジタル・ATM専用型アクセスからブロードバンド系インターネットアクセスまでの幅広いアクセスラインナップメニューと共に、IP網通信品質制御(QoS)と通信品質(SLA)により、多様なニーズにも対応できる点。」

インターネットと連携したオプションサービスでは、社内からソルテリアを経由してインターネットにアクセスできる「インターネットゲートウェイ」、社外からインターネット経由で社内システムにアクセスできる「アクセスゲートウェイ」の2つがある。

一般に企業ネットワークでは、セキュリティ管理の観点から、本社からのみ外部のインターネットに接続している。そのため、支社などの拠点からインターネットにアクセスする場合は、イントラネット網を経由し、本社のゲートウェイから外部へ抜けることになる。この場合、拠点でのインターネットアクセスが増えるとイントラネット網の帯域を大きく消費してしまうという問題がある。

ソルテリアのインターネットゲートウェイを活用すれば、拠点からも直接ソルテリア経由でインターネットにアクセスできるようになり、イントラネット網へのトラフィックの集中を回避

図 インターネットと連携図る日本テレコムのデータ通信サービス

